

追悼

依田和夫さんの思い出

早稲田大学教授 伊藤 滋

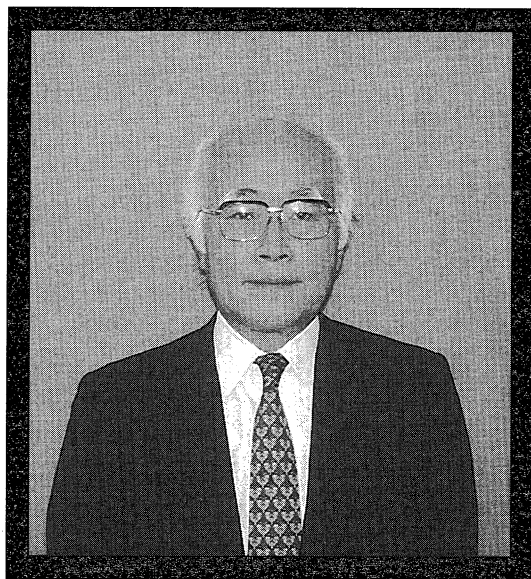
依田和夫さんがこの6月27日に急逝された。あっという間であった。まだこれから一緒に仕事が続けられると思っていたのに残念でならない。

依田さんと私は昭和32年工学部卒業の同期生である。もっとも、依田さんは土木で私は建築であったから在学中は会う機会はなかった。依田さんと初めて挨拶を交わしたのは卒業式であった。紹介してくれたのは建築の友人であった。“都市計画は役所の仕事だから、伊藤は土木に友人を作っておいたほうがよい”とこの友人は考えたのであろう。

依田さんはスマートな東京っ子の雰囲気にあふれていた。そして人を包みこむ品の良さを持っていた。当時、都市計画を生涯の仕事にしようと云う若者はまれであった。二人の交わした会話は覚えていない。しかしもしあったとすれば、土木や建築の主流から外れて、都市計画に人生をかけようとする若者二人の、ぎこちないしかし同志的感覚に支えられた短い会話であったろう。

依田さんが建設省・住宅公団に在職中、いろいろな勉強会に同席させて貰った。その勉強会のはしりは、故八十島義之助先生が主催された交通懇話会である。この勉強会は昭和33年頃から5年位、土木工学科の会議室で月一回位開かれた。“交通計画”という断断的な学問用語がそこでは語られた。今考えると「こんな立派な先輩が」という若い技術官僚が集まってきた。宮崎茂一氏・竹内良夫氏も来られた。鈴木忠義先生が幹事役であった。依田さんはここに良く来られた。そこで卒業式の後はじめて、この会の下働きをしていた私は依田さんと都市計画の会話を持つことが出来た。依田さんを通して建設省の若い技術者を知ることが出来た。

私が米国留学から帰ってきたのは昭和40年であった。依田さんが英国留学から戻られたのが昭和42年である。この頃、東大土木工学科と都市工学科が共有する緊急の研究課題は、“交通計画”を学



故 依田和夫 氏

本会の名誉会員 依田和夫氏には

平成13年6月27日永眠されました。

ここに慎んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

問の世界から行政分野に押し進め、実体化することであった。パーソントリップとかモーダルスプリットといった技術用語が若い研究者の間に飛びかっていた。依田さんは当時30歳半ば、新進気鋭のエリート技術官僚であった。依田さんはその激しい議論の渦中に飛び込み、これを行政面では“大都市間交通計画”として制度化された。この業績は、20世紀後半に都市計画技術が現代化できた一番大きな動機であったと思う。

依田さんが住都公団に建設省から出向していた昭和50年代は、住都公団の最盛期であった。ここで、依田さんの都市計画家としての活動は大きく花を開いた。筑波研究都市、MM21等、当時の日本を代表する大規模開発はすべて依田さんの構想力と調整力によって可能になった。この時代の依田さんの業績を振り返ると、依田さんは本当のアーバンデザイナーであったと実感する。依田さんは普通の役人にはない発想の豊かさがあった。同時に、その発想を実現の社会に着地させるなみなみ

ならぬ行政的手腕を備えていた。

公団を退職されたあと、慶応義塾大学で教授になられた。そこでようやく私は依田さんと同僚になった。60歳を過ぎた私達2人の交遊はおだやかであった。大学の教授としても依田さんは素晴らしかった。真面目にしかしスマートに学生を指導した。そして依田さんと私の最後の仕事は、湘南高校で依田さんと同期生であった石原慎太郎知事が依頼した“東京の震災復興計画”であった。その発表は今年の4月の終りに行なわれた。それから2ヵ月後、依田さんは忽然といなくなった。私にとって、依田さんはまだ活躍していて当然の友人である。本当に残念である。

依田和夫氏の御履歴と御学歴

東京工業大学名誉教授 黒川 洸

本学会名誉会員依田和夫氏が、平成13年6月27日に急逝されました。67歳でした。

依田氏は、昭和8年9月24日に神奈川県鎌倉町で生まれ、昭和27年3月神奈川県立湘南高校を卒業されました。昭和32年に東京大学工学部土木工学科を卒業後、建設省に入省され、都市局を中心に活躍されました。この間昭和41年8月より1年間ロンドン大学インペリアルカレッジで都市交通計画の研究を行い、帰国後広島都市圏のパーソントリップ調査に参加され、同時に第1回東京都市圏パーソントリップ調査の予算の獲得から始まり、大活躍されました。この時、広島で、約30時間に及んだ2人で東京都市圏調査について議論したことが昨日のように思い出されます。その後都市計画法の大改訂に参画され、現在の都市施設のあり方の基礎づくりをされました。また多くの都市の計画調査に参加され、地方の計画行政者の水準の向上にも努められました。昭和51年に日本住宅公団に移られ大規模ニュータウン事業に参画されましたが、特にみなとみらい21事業についてはその立上げから現在まで一貫して主導的に動かれ、ライフワークとして心血を注がれ、その成長をこよなく愛されておられました。また筑波研究学園都市については、在任2年間で、各種都市施設の基

本計画を立案実行され、都市施設の基礎が出来上がりました。また昭和60年の科学技術博覧会にむけて、土浦高架道路の建設にも努力されました。昭和53年に建設省に戻られ、都市交通調査室では街路事業調査の体系を確立され、区画整理課長時代には、事業を促進するための各種事業制度の改善に努力されました。昭和57年に街路課長になられると、区画整理課時代から引き続いて、沿道区画整理型街路事業制度を新設し、幹線道路沿線で発生する環境問題を沿道土地利用の更新を同時に考慮できる方式の適用促進に努力をされました。また20年来懸案となっていた北海道小樽臨港線の事業については担当課長として事業費の重点投入に努力しただけでなく、アーバンデザイナーとして周囲の環境にマッチした道路を完成させ、現在の小樽の活性化の基礎を築きました。これは土木の行政プランナーとして初めてのアーバンデザイナーの誕生と言っても過言ではないと思っています。昭和60年には大臣官房技術審議官となり、多くの後輩の水準向上に努められました。この間その多忙な職務にも拘らず、昭和56年から平成5年の間東京大学で、また昭和57年から59年の間東京工業大学で非常勤講師を勤められ学生への教育にも努力を傾注され、昭和63年6月には東京大学より工学博士を授与され、これに対し日本都市計画学会より学会賞が授与されました。昭和62年10月に住宅・都市整備公団理事に就任され宅地開発事業全体を監督されるとともに、MM21事業促進にも一層努力されました。平成4年からは財団法人計量計画研究所の常任顧問となられ、平成6年4月よりは慶應義塾大学SFCの環境情報学部の教授として、学生の育成指導に当られました。平成7年には日本都市計画学会会長に就任され、特に学会の財政基盤の強化に努められました。また昭和63年より日本交通計画協会の副会長に就任されていましたが平成10年よりは実質的にその運営に参加されておりました。依田和夫氏はプロジェクト指向の行政プランナーであったと思います。我々はまだまだその知識を十分吸収できずにおり、これからさらに指導頂くつもりであり、氏の急逝には残念の一言であります。

ここにこれまで指導頂いたことに感謝しつつ、心より依田和夫氏のご冥福をお祈り致します。